

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100632		
法人名	有限会社 ミテラ		
事業所名	洛和グループホーム大津 2F		
所在地	大津市 大門通 11-11		
自己評価作成日	平成24年11月18日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の個別性を活かした関わりを行なっています。 ・お一人おひとりの持っている力を見極め引き出せるよう支援しています。 ・出来るだけ外出の機会を作り、少しでも社会との関わりや、季節を感じられるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiryoVoCd=2570100632-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は、「つなげよう笑顔と心と地域の輪」との事業所理念を掲げ、地域のボランティアの受け入れや法人のメディカルフェスティバル等の地域との関わりを大切に取り組んでいます。職員は個別ケアに努め、利用者一人ひとりの思いや生活歴を把握して残された力を大切に役割を担ってもらう事で、利用者が必要とされている事を感じてもらえるように支援しています。きめ細やかなケアを行い、同法人のグループホームの研修として互いの現場から学ぶ研修体制を取り、研修を受け入れることで事業所の職員のスキルアップにも繋がっています。運営推進会議では、参加者から感染症対策等の質問が出され事業所の取り組みを説明したり、また、事業所の避難訓練の参加を呼びかけ協力を得るなど、共に運営に参加して貰っています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げ、毎朝職員で復唱し、意識が浸透してきている。	職員皆で意見を出し合い「つなげよう笑顔と心と地域の輪」との事業所理念を作成し、玄関に掲げ、毎朝唱和し意識づけています。運営推進会議や日常の交流から地域との関わりを大切に取り組んだり、利用者や地域の方の笑顔に繋がるよう行事や日々の支援を行い、理念が実践できるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進鍵で情報を交換し、地域の行事への参加や手伝い、中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。	運営推進会議で地域行事の情報を得て、地蔵盆や区民フェスティバル、夜市などに利用者と共に参加をしています。民謡やハンドマッサージ等の地域ボランティアの来訪や中学生の体験学習も受け入れ、地域との関わりを持っています。また、法人の行うメディカルフェスティバルで事業所の模擬店を出す等、地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と協賛し地域の方を対象に、認知症サポーター養成講座を定期的に開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果の報告し、課題があれば相談しサービスの向上に努めている。	会議は町内の役員や家族の参加を得て開催し、状況の報告や意見交換をしています。参加者から感染症対策等の質問が出され、事業所の取り組みを説明しています。また、会議の中で地域の情報を多く貰ったり、事業所の避難訓練の参加を呼びかけ協力して貰っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を直接持参し、よい関係作りに努めている。	市役所の担当課に運営推進会議の議事録や介護保険の更新の書類を持っていき、事業所の現状報告等話しをする関係に成っています。市主催の社会福祉士養成研修でグループホームの見学を受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で理解を深め、ケアに取り組んでいる。カンファレンスで気づきを話し合い共有を図っている。	法人の身体拘束をしないケアについての研修を受講し、事業所で伝達研修を行い職員に周知しています。玄関の施錠はせずに、利用者が外に出たい様子の時は気持ちに寄り添い一緒に出掛けています。転倒の多い方には家族の希望もあり足元にセンサーを置いています。本人の思いで動ける様に支援し、毎週外す方向で検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部の研修で理解を深め、防止に努めている。		

洛和グループホーム大津(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部の研修で学び、必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や契約の改定・解約時はご家族に十分な説明・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時、必ず意見・要望を確認している。また、年一回 満足度アンケートを実施し、運営に反映できるよう努めている。	家族の面会時に利用者の様子を伝えて意見を聞いたり、家族アンケートを年1回行い意見が出せる機会を作り結果は家族に報告しています。家族から利用者の入浴介助についての意見が出されたり、外出先の提案と協力があり実施に繋がり、事業所のサービスや運営に活かせるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談、月一回のカンファレンスの際などに意見を聞く機会をもうけ反映させている。	カンファレンスでは言い易い雰囲気を作り、年2回の個別面談でも職員の意見を聞いています。職員の意見から散歩先の地蔵のエプロン作りに利用者と一緒に取り組んだり、行事への提案が出され、できる限り実践しサービスに活かしています。必要に応じて、法人幹部に相談しながら運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告書にて把握し環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量評価にて一人ひとりの力量を把握し、必要な研修参加を促すなど支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修参加やグループホーム協議会等で交流する機会があり、一緒に勉強会を行うなどの取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にゆっくり話を聴き、安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談で話をじっくり聴き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を十分に聴き、必要な支援を見極め 他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の経験を生かし、共に支えあえる関係作りを意識しながら支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活されてきた情報を共有し、相談し合いながら、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた家に外泊したり、友人・知人が訪問したり、これまでの関係が途切れないよう支援している。	知人が訪ねて来られた時はお茶を出して居室でゆっくりと過ごして貰っています。家族と一緒に今迄住んでいた家に外泊したり、墓参りや馴染みの美容院に行くなどの支援をしています。利用者に日々の会話で聴いたり、家族に相談して馴染みの店に外食や買い物に行っています。手紙を出したり、書道や絵画など趣味の継続の支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、その時の状況を見極めながら、良いかかわりができるような支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や連絡があればその都度フォローできるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら全職員が利用者の希望や意向を聞き取り、本人の視点でその人らしい生活ができるよう検討している。	入居時に利用者や家族からこれまでの暮らし方や意向、希望等を聴きアセスメントを行ったり、入居後の日常の会話や対応の中で表情や何気ない言葉から汲み取り、意向の把握に努めています。職員全員が利用者との関わりから得られた心情の情報を記入し、カンファレンスで話し合い本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントやセンター方式等を活用し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を中心にカンファレンスや申し送り等で、情報を共有し一人ひとりの現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、ご家族・本人・関係者の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居時に利用者の思いの基アセスメントを行い、職員参加のカンファレンスを開き介護計画を作成しています。職員は介護計画に添って支援を行い介護日誌に実施状況を記入し、3ヶ月毎に評価を行っています。介護計画の見直し前に家族には希望記入用紙を利用し意見を聞き、訪問看護師等から医療情報を得て再アセスメントを行い、カンファレンスで検討して6ヶ月毎に見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのケアプランに沿って日々の様子を記録し、特記は全体の管理日誌にも記録している。また口頭での申し送りも行い、情報共有しながら実践、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別的なかかわりを大切に行い、ニーズに合わせた柔軟な対応を心がけている。		

洛和グループホーム大津(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用や地域の行事への参加、地域の店を利用するなど、周りの方々とつながりのある生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が納得したかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	契約時に今迄のかかりつけ医に継続受診が出来る事を説明し、以前からのかかりつけ医に往診に来て貰っている方もおり、受診時には事業所で支援をしています。事業所と同じ建物の1階で開業している協力医に受診に行ったり、月2回往診に来て貰っています。家族には書面で受診結果を記入して報告しています。緊急時や夜間は訪問看護師を通じて対応してもらえる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の気づきや変化を訪問看護師に伝え、適切な受診を受けられるよう、情報共有しながら24時間体制で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員を通し、連携を図りながら情報の共有に努め、必要に応じ退院前に話し合いの場を設けるなど、協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人の意向を事前に把握し、必要時担当医や関係者を交え、何度も話し合いや説明の機会を設け、チームで支援している。	入居時に看取りの指針に沿って説明し、重度化した時には担当医と家族を交えて話し合い、常時医療が必要でなく家族の協力が得られる事ができる等の条件が整ったうえで、看取りの支援を行っています。看取りの支援の経験があり、振り返りを行いその経験を活かせるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、普通救命講習を受講し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体での消防訓練や、2ヶ月に一回の避難訓練を実施している。地域とも運営推進会議等で話し合い、訓練の参加協力を促している。	消防署立会いの下年2回屋間想定で避難誘導、通報、初期消火の消防訓練を実施しています。2カ月毎に勉強会として夜間想定での避難訓練や予防的な訓練も行っています。運営推進会議で相談する事で、委員の訓練への参加が得られたり、地域の災害の訓練にできるだけ参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時・入浴時の声掛けなど、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応を心がけている。	職員は法人の接遇の研修で学び、報告書を記入しカンファレンス時に伝達研修をしています。利用者は目上の人として意識し、常に尊厳を守り接して行く事を職員間で話し合い、馴染みの関係になっても節度を持つように努めています。職員の不適切な言動があった時は管理者が直接注意をしたり、会議の時に指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりを把握し、自己決定しやすいよう個々に合わせた工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を最優先し、個々のペースに合わせて支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、化粧やマニキュアをしたり、服と一緒に選んだり、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや力を活かしながら支援し、一緒に作ったり片付けたり、一連の流れを通し 楽しめるよう努めている。	メニューは担当職員が利用者の希望を取り入れながら決めています。調理は利用者が自信を持って楽しく出来る作業に携わってもらいながら行い、時にはテーブルでみそ汁等を作り調理を見ることを楽しむ時もあります。職員も同じテーブルに着き、同じものを食べ楽しい食事時間となるよう支援しています。弁当を取ったり、外食、誕生日には希望の献立やケーキ作りを行い、楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて食事量の把握を行い、月一回の体重測定にて健康管理に努めている。必要に応じ水分チェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に応じた支援を行っている。一日3回口腔ケアの実施に努めている。		

洛和グループホーム大津(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合った支援をしている。	排泄チェック表を利用し、個々のパターンや生活のリズムを把握し個々に合わせトイレに誘導しています。トイレに行きたい様子の時に誘導したり自立に向けて支援する中で、紙おむつを利用していた方が失敗の回数が減り、布パンツに変える等、その人に合わせた下着やパッド等を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握し、個々に応じた対応を行っている。水分や運動を促したり食事の工夫、牛乳を勧めるなど予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな利用者には可能な限り毎日入浴してもらっている。それぞれのタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。	午後から17時頃までの間で入浴できるように準備し、2日に1回は希望を聞きながら入浴支援をしています。入浴の好きな方は毎日でも入ってもらっています。季節の柚子湯や入浴剤を使い、好みの湯温で1対1介助でゆっくりと入って貰っています。入浴を拒否される方は3～4日に1回は本人の気持ちを尊重しながら誘導を工夫して入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり希望に応じて昼寝をしてもらったり、つかれが見られたら休息の促しをしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったときはその薬の効果や副作用などの詳細を速やかに回覧し申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トイレットペーパーの補充、は花の世話、郵便受けに新聞を取りに行くなどその人の好きなこと、得意なこと、生活歴にあわせて役割を職員全員で考え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があればできる限り対応に努め、職員からも声掛けし外出の機会を作っている。また個別ケアとして、普段行けない場所に出かけられるよう支援している。	散歩には毎日事業所周辺に出掛けています。新聞取り、ごみ出し等で外気に触れたり、気分転換できるよう支援しています。買い物は利用者の様子を見ながらその方の必要な物や欲しい物を買って行っています。それぞれの利用者の希望で外食や水族館、美術館に個別で行ったり、家族の協力を得てバスを借りて遠方の外出支援も行っています。	

洛和グループホーム大津(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があれば支援し、力に応じた介助に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話をしてもらったり、切手を用意し、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は季節感のある花や利用者が書いた俳句・絵を飾り、温かく生活感が感じられるよう工夫している。不快な匂いがしないよう、汚物は新聞に包んで処理し、汚れはすぐに処理するよう努めている。	玄関には生花や鉢植えで季節を感じられるようにしたり、湿度や温度に気を配り快適に過ごせる様に調整しています。俳句、絵等利用者の作品を飾ったり、日めくりカレンダー、時計を見易い所に掛けています。リビングではテレビの前や玄関の近くにソファを置いて少し離れて少人数でも寛げるようにしています。リビングの所々に観葉植物を置き、和めるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置を二箇所に分け、一人になれたり気の合う利用者同士で過ごせたりできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り馴染みの家具や道具を持参してもらい本人が居心地よく過ごせるよう支援している。また、自身で描いた好みの絵や、知人からの絵手紙を飾るなど、工夫している。	居室には大きな窓があり、明るく外が眺められ季節を感じる事が出来ます。テレビや棚の上にスタンド等の馴染みの物を置いたり、仏壇を持って来ている人もいます。好みの芸能人のポスターを貼ったり、知人から貰った絵手紙を額に入れ壁に飾ったり、書棚や机といすを置き、書きものが出来る様に家族と一緒に設えている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ところどころに手すりを設置し、自立しながらも安全が確保できるよう工夫している。		